

## 図書館利用者教育に関する若干の考察

— 亜細亜大学学生に対するアンケート調査を踏まえて —

### 一 図書館利用者教育序説

#### 一、一 図書館利用者教育の定義

図書館利用者教育 (library user education) とは、図書館員や教員等が図書館の利用法あるいは資料の利用法を学生に指導・教育すること、と一般に定義される。

この利用者教育 (user education) という用語は、英国で使用されることが多く、米国では、library instruction, bibliographic instruction, 更には reader instruction という用語を用いることが多い。この様に、利用者教育に関する用語はいくつか存在するが、各用語における概念の差はそれほどなく、上述した意味で使用されることが多い。

#### 一、二 図書館利用者教育の意義

我が国においては、利用者教育はまだ緒に付いたばかりだが、欧米では学校図書館や大学図書館の利用者教育を正規の教科に織り込み、系統だった利用者教育を行っているところが多い。

一 秀 田 長

長 田 秀 一

図書館では自由に情報の入手ができる。しかし、利用者は図書館で、どの程度、どのような情報が入手できるのか、しかもどの様にしてそれらの情報を入手するか知らなければならないし、図書館は利用されてはじめてその存在意義があるのである。この意味において、我が国における図書館の存在意義はそれほど十分認識されているとは言い難い。

欧米においても、古くは図書館、特に大学図書館は学生の教育には直接的な関わりが薄い機関で、単に書物を保管する場所であると考えられていた。しかし、今日、社会や大学教育をとりまく環境は一変し、大学教育が図書館に対して求める期待も大きくなっている。大学教育が図書館に求めることについては、カーネギー高等教育委員会の報告でも明確に指摘されている。

知識の増大は著しい。その結果もたらされる知識の新しい富の増加は、誰もそのすべてを確実に掌中に収めることができな<sup>い</sup>。そればかりか、学生時代には、その中の僅かなものを知識のサンプルとして獲得できるに過ぎないことを意味している。そこで問題となるのは、高等教育を受ける人びとが社会と自分について何を知ることができるか、何を知らなければならないか、そして、それらのことを如何にして入手するかであろう。いずれにしても、既存の知識を教えるという高等教育に課せられた役割は、その重要性を減少しつつあり、生涯を通じての自己開発の技術や方法、とくに図書館を活用する自主的勉学の技術と方法を教えることの重要性が高まりつつある。<sup>(1)</sup>

カーネギー高等教育委員会の報告にある様に、来たるべき情報化社会においては、図書館それ自体もコンピュータを用いたインストラクションやビデオカセットといった視聴覚機材等のニューメディアを通して大学教育のセンターとしての役割を果たすことがますます期待されるものである。

### 一、三 英国における図書館利用者教育

英国では利用者教育の重要性は、一九六〇年代になってから認識されるに至った。それまで、ケンブリッジやオックスフォードといった伝統的な大学は、図書館の様々な蔵書や目録の維持といったことに力を入れ、利用者へのサービスにはそれほど重点を置いていなかった。こうした伝統的な大学の図書館に対して、polytechnics や戦後誕生した比較的新しい大学では、図書館員が利用者サービスに力を入れ、サービス指向の図書館を目差すようになった。

かくして、一九七〇年代に入ると利用者教育への関心が高まり、British Library Research and Development (BLR & DD) の前身である Office for Scientific and Technical Information の主催で、一九七三年に Bath 大学で「科学技術情報に関する利用者教育」というテーマでワークショップが開催されて以来、急速にその関心が高まっている。

この会議の結果、「情報利用教育に関するレビュー委員会」が一九七四年に設立され、利用者教育に関する種々の報告を行っている。

その後、BLR & DD は、①schools, ②information officer, ③teaching librarians to teach, ④traveling workshops experiment, ⑤online といったテーマを掲げ、利用者教育を様々な側面から支援して<sup>(2)</sup>いる。

一九七九年には BLR & DD の主催で Trinity College において、「Library user education: are new approaches needed?」と題する国際会議が開かれ、高等教育における図書館利用者教育の問題点を活発に議論して<sup>(3)</sup>いる。

#### 一、四 米国における図書館利用者教育

米国では、大学図書館が大学における学習、教育、研究を援助する重要な機関であるとの認識は比較的早くから存在した。従って、図書館利用者教育の必要性も早くから説かれていたが、今日の意味で、利用者教育に特に心が寄せられるようになったのは英国と同様、一九六〇年代になってからである。

前述したカーネギー委員会は、古くから図書館の教育的役割を重視し、利用者教育に関する資金援助を行った。それとともに、利用者教育に関する様々な会議が開催され、数多くの論文が発表されたりするなどの研究活動が活発に行われるようになった。こうした活動の結集として、米国では一九七一年に、「大学図書館における図書館オリエンテーションに関する会議」の第一回（一九七一年）会議において、LOEX (Library Orientation/Instruction Exchange) 計画の重要性、構想が検討され、翌年から実施されるに到っている。

LOEX は一種のクリアリング・ハウスで、設立当初は Council on Library Resources の資金援助を受けていたが、現在では National LOEX Academic Library Instruction Clearing House という名称の独立機関として機能している。LOEX は、図書館利用者教育に関心をもち、そのための計画を実施あるいは研究しようとしている大学図書館のライブラリアンや図書館学教育者に対し、オリエンテーション・プログラムや図書館利用者教育プログラムの実際例や研究資料およびデータを収集したり、貸し出ししたりしている。現在では、八三〇館の大学図書館がこの計画に参加している<sup>(4)</sup>。

最近の ALA Library Instruction Round Table (1979) で、次の二つの重要な計画が打ち出されている<sup>(5)</sup>。

(1) 利用者教育の理論的な基礎を検討する Task Force on Institutional Theory の設立。

(2) Task Force が利用者教育のプログラムの目標や目的を開発していく上で責任を持つこと。

これらの計画によって、図書館利用者教育のプログラムの他、図書館が大学教育の目標をいかにして援助できるかがより一層明確にできるものと期待されている。

以上みてきた様に、英米における図書館利用者教育の発展過程は多少異なっている。しかし、利用者教育のプログラムの内容には、それほど差はみられない。ただ、英国では各大学における利用者教育がおおよそ似た傾向にあるのに対して、米国の場合には、各大学によって利用者教育が異なっており、プログラム内容に各大学の特徴が出ており、学生も自由にコースの選択が出来る点が英国とは異なっている。こうした利用者教育の差異は図書館や高等教育の機構の違いによるところが大きいものと思われる。

#### 一、五 図書館利用者教育と利用調査の関連

利用者教育は、図書館学では非常に大きく発展してきた分野である。利用者教育とともに、最近図書館学において、一層急速に発展してきた分野として利用者調査・研究 (user studies) がある。これは、利用者行動のパターンを調査・研究し、その結果を図書館サービスに結び付けていくことを目的としたもので、利用者教育プログラムを開発していく上で、この利用者調査の結果を十分に考慮に入れる必要がある。

有名な Bath 大学の会議でも「これまでの利用者調査と利用者教育の関連性について」の議論がなされている。テキサス大学のプログラムにみられるように、実際に利用者調査の結果が利用者教育プログラムの開発に応用された例もいくつか報告されている。

利用者調査を基に、利用者教育のプログラムを開発する場合、次の二点を評価する必要がある。

(1) 開発された利用者教育のプログラムが利用者のニーズを十分満たしたものであるか。

(2) 利用者教育のプログラムは、その後の利用者行動に望ましい影響を与えたか。

本大学においても図書館が十分に活用されているとは言い難い状況にある。今後、学生に図書館利用者教育を十分にを行い、本大学の教育において、図書館が有効に活用できるようにするために、図書館利用技術、情報処理技術を織り込んだ図書館利用者教育のプログラムの開発が必要であるものと思われる。

こうした認識に立ち、今回、本学生に対して図書館利用に関する簡単なアンケートを実施した。今回の調査が、将来の図書館利用者教育のプログラム開発の上で参考になるものと思われるので、以下にその調査結果を紹介していくことにする。

## 二 調査結果の概要

### 二、一 調査対象・方法

今回の調査対象として、経済学部的一年生を選び、アンケートを実施した。調査時期は本年五月で、有効回答件数は一四八件であった。新入生を対象に選んだのは主に次の理由による。

(1) 学生が過去に図書館の利用教育を受けたことがあるのか、また図書館に関する知識をどの程度有し、実際にどの程度利用しているのかといった点をみるには、新入生が調査対象として一番ふさわしい。

(2) 将来、図書館利用者教育のプログラムを開発していく際に、まず新入生を対象としたものから始める方が妥当である。

## 二、二 調査項目・結果

調査項目および結果は付録のアンケート用紙に示しておいたので、参照されたい。調査項目の一～六は一般的な項目で、最近の学生の問題解決パターンや図書、新聞、ラジオといった情報メディアにどの程度接しているかをみるためのものである。調査項目の七～一二は図書館の利用（教育）に関する設問である。

各調査項目の結果をまとめると次のようになる。

一、問題解決に際しては、回答者の九二％が「友人に相談する」か「自分自身で」と答えており、学生にとって友人との情報交換は非常に重要である。

二、大半の学生が、びあ、アングル、シティ・ロードといったタウン誌（情報誌）を利用しており、その利用回数もかなり頻繁である。

三、回答者の八〇％が漫画本を読んでおり、月平均の回数も多い。

四、一方、週刊誌を含めた雑誌や図書の読書量は月平均一～三冊が多く、次いで四～一〇冊程度である。

五、新聞は回答者の五七％が毎日読んでいるが、ときどきしか読まない学生が三四％もおり、中にはほとんど読まない学生も八％程いる。

六、ラジオやテレビと接触する時間は、回答者の六三％が一～三時間で一番多いが、番組内容は娯楽番組が圧倒的に多く六六％、次いで報道番組の二〇％である。

七、図書館利用に関する専門用語を耳にしたことのある学生は平均して二二％にも及ぶが、専門用語をよく理解しているか答えた学生は平均してもわずか一七％である。

八、よく利用する図書館は、大学図書館と市区町村立図書館が圧倒的に多い。利用したことのある図書館で一番多いのは、市区町村立図書館、学校図書館、大学図書館の順で、国立国会図書館の利用経験は少ない。

九、図書館の目録に関して、書名目録、著者名目録、分類目録を利用した経験のある学生は平均三〇%に及ぶ。しかし、よく利用するのは書名目録のみで、その他の目録はあまり利用しない傾向にある。

一〇、特定の資料を探す方法としては、図書館で探すことが一番多く、次いで書店、友人に聞くとなっており、こゝでも友人を情報源とみなす傾向が強い。

一一、文献の探し方、図書館の利用法を過去に教わったことのある学生は回答者の六〇%で、その時期としては大学が一番多く、次いで高・中・小校の順である。教わった教科としては、社会、国語、理科の順になる。

一二、レポート、論文の書き方に関して、回答者の四九%が教わったことがあり、その時期としては、大学、高校がほとんどである。

### 三 結果の考察と今後の課題

最近の大学生の傾向として、親友を求めて大学に入る学生が多く、従って、大学で特に力を入れているものとして、「友だちとの付き合い」が一番多く六三%、次いで、「クラブ、サークル活動」の五七%、「趣味・読書」が五一%、「大学での勉強」は三八%という調査結果が出ている。<sup>(8)</sup> また、大学生の一日の平均読書時間は五四分、テレビをみる時間は一日平均二時間三〇分という調査結果も出ている。<sup>(9)</sup>

今回の調査からも、本学学生が今日の一般的な大学生像に近いことが伺えた。



一方、図書館の利用教育に関する質問では、予想していたよりも、図書館利用の一般的な知識は身につけていることが判った。殊に、図書館学を学んだことのない新入生が、DIALOG(米国ロッキード社の商業用オンライン情報検索システム)、データ・ベース、オンライン検索、UDC(国際十進分類法)、FID(国際ドキュメンテーション連盟)といった専門用語を聞いたことのある学生が案外多かった。

また、図書館の利用者教育を過去に受けたことのある学生も半数以上にのぼっている。しかし、こうした反面、図書館利用に関する知識を十分身に付けており、よく図書館を利用している学生はかなり少ないのが現状である。

今回の調査結果を参考に、将来、図書館利用者教育のプログラムを開発していくには、更に詳しく学生の図書館利用の実態を調査し、その結果をプログラムにとり込む必要がある。その際、米国の大学には、模範とすべき利用者教育のプログラムが数多く存在するので、参考に資するためにも、あわせて検討する必要があるものと思われる。

また、今日の情報化社会における大学教育を考えると、図書館利用者教育は、単に図書館が利用できる利用者を育成するのではなく、これまでの図書館利用者教育にはみられなかった、知識生産者としての図書館資料源による情報処理ができる人間を形成し、学問や科学技術を開発する基本的な能力を育成するものでなければならぬであろう。<sup>(10)</sup>

更に、図書館利用者教育のプログラムもいくつかのレベルが考えられ、そのプログラムの開発には、目標の設定(大学教育における位置づけ)、教育対象、教育の時期、教育方法、教育内容、教授陣、教育材料、といった様々な要素を考慮する必要がある、今後の検討課題だが、当分は、新入生を対象としたプログラムを開発していくことが望まれる。

引用文献

- (1) 渋川雅俊。「大学図書館利用者教育研究序説——テキサス大学図書館利用者教育総合計画を中心として——」。Library and Information Science. No. 16. p. 236 (1978).
- (2) Harris, Colin. "User education and user studies". British Librarianship and Information Work 1976~1980, Vol. 2: Special Libraries, Materials and Processes. Taylor, L. J., ed. London, Library Association, p. 145~164 (1983).
- (3) Fox, Peter. "Library user education; are new approaches needed?." Proceedings of a Conference, Trinity College Cambridge 1979. British Library Research & Development Reports. Report No. 5503. London, British Library, p.110 (1980).
- (4) Kirkendall, C. A. "Library use education: current practices and trends". Library Trends, p. 29~37 (1980).
- (5) Brevik, Patricia. S. "Planning the library instruction program". Chicago, American Library Association, p. 2 (1982).
- (6) Harris, Colin. "User needs and use education". Proceedings of a Conference, Trinity College Cambridge, 1979, London, British Library, p. 12 (1980).
- (7) Ibid., p. 14.
- (8) 矢倉久泰。「大学グラフィティ——データでみる大学生の顔——」。世界。第四六三号。岩波書店。一三〇頁(一九八四年六月)。
- (9) 同上。一三〇頁。
- (10) 室伏武「情報処理能力としての図書館利用能力の教育——図書館利用者教育の比較研究——」。『情報処理能力教育に関する比較研究報告書』。東京・亜細亜大学言語・文化研究所。一一四頁(一九八四年)。

付録

情報処理アンケート用紙

昭和 年 月 日

専攻名  
氏名

1. 問題を解決しようとする場合、あなたは 自分が 下記のどのタイプだと思えますか。 ( )
  - a. 友人に相談する (114)
  - b. 両親に相談 (8)
  - c. 教師に相談 (4)
  - d. 自分自身で (70)
  - e. その他
 回答. (114) (21) (30) (15)
2. 下記のタウン誌 (情報誌) を利用したことがありますか。利用したことがあるものをすべてあげなさい。
  - a. ぴあ (114)
  - b. ソチイ・ロード (21)
  - c. フォンダ (30)
  - d. その他 (15)
 回答. (114) (21) (30) (15)
3. 漫画本 (雑誌, 単行本を含めて) を読みますか。
  - ① タウン誌を利用する理由は何ですか。 ( )
    - a. 1〜3回 (101)
    - b. 4〜10回 (17)
    - c. それ以上 (6)
  - ② 1ヶ月に何回位利用しますか。 ( )
    - a. 1〜3冊 (101)
    - b. 4〜10冊 (17)
    - c. それ以上 (6)
 回答. (101) (17) (6)
4. 雑誌, 図書を月平均どの位読みますか。 ( )
  - ① それは月平均何冊位ですか。 ( )
    - a. 1〜3冊 (90)
    - b. 4〜10冊 (34)
    - c. それ以上 (9)
  - ② 漫画雑誌で一番読むものは何ですか。 ( )
    - a. 1〜3冊 (96)
    - b. 4〜10冊 (53)
    - c. それ以上 (14)

1 家 田 敏

5. 新聞は毎日読みますか。 a. はい b. ときどき c. ほとんど読まない ( )  
 回答. (86) (52) (12) 88

① 紙面の中で最も興味のある箇所はどこですか。( )  
 ② スポーツ新聞は買って読みますか。 a. はい b. 時々買う c. 買ったことはない ( )  
 回答. (10) (69) (86)

6. テレビ, ラジオは1日平均どの位見たり聴いたりしますか。(両方合わせてです)  
 a. ほとんど見ない b. ラジオは聞くがテレビは見ない c. 1~3時間位 d. それ以上 ( )  
 回答. (21) (89) (13)

① それは主にどんな番組ですか。 a. 報道 b. 教養 c. 娯楽 d. その他 ( )  
 回答. (36) (7) (116) (16)

7. 下記の用語をこれまでに聞いたことがありますか。聞いたことはあるがよくわからないものは○, よく理解しているものについては◎のところに記号を記入して下さい。(複数選択可)

- a. レファレンスサービス b. 書誌 c. 索引 d. 目録 e. 日本十進分類法 f. 主題
  - g. 件名 h. 情報検索 i. SDI サービス j. UDC k. 抄録 l. KWIC 索引
  - m. オフ・ライン検索 n. データベース o. INSPEC p. NIST q. DIALOG r. FID
- 回答. ○ (a. b. c. d. e. f. g. h. i. j. k. l. m. n. o. p. q. r) (82, 87, 43, 54, 43, 53, 52, 42, 27, 24, 30, 14, 64, 38, 20, 23, 24, 22)

8. 下記の図書館を利用したことがありますか。よく利用するのは◎, 利用したことがあるものは○のところに記入して下さい。  
 い。

- a. 国立国会図書館 b. 都道府県立図書館 c. 市区町村立図書館 d. 大学図書館 e. 学校図書館
- f. 児童図書館 g. その他

回答.

- ◎ (a. 0, b. 12, c. 52, d. 58, e. 24, f. 2, g. 3)  
○ (6, 39, 69, 57, 67, 71, 25, 1)

9. 図書館で下記の目録を利用したことがありますか。よく利用するものは◎に、利用したことのあるものは○のところに記入して下さい。

a. 著者名目録    b. 書名目録    c. 件名目録    d. 分類目録    e. 辞書体目録

- 回答.    ◎ (a. 28, b. 56, c. 4, d. 13, e. 2)    ○ (a. 57, b. 65, c. 18, d. 42, e. 9)

10. 特定の資料(雑誌, 図書, レポート類を含む)が必要な時, 下記のどの方法をとりますか。よくとる方法は◎に, とったことのある方法は○のところに記入して下さい。

a. 書店にいく    b. 友人に聞く    c. 教師にたずねる    d. 図書館にいく    e. 出版目録で探す  
f. 図書館のカード目録を探す    g. 図書館員にたずねる

- 回答.    ◎ (a. 54, b. 48, c. 8, d. 63, e. 11, f. 28, g. 18)    ○ (a. 24, b. 48, c. 20, d. 50, e. 17, f. 36, g. 37)

11. 情報の収集法, 文献の探し方, 図書館の利用法について学校で授業を受けたことがありますか。

a. はい    b. ない    c. 忘れた  
回答. (87)    (37)    (20)

① それは下記のどの学校でしたか。(いくつでもかまいません)

a. 小学校    b. 中学校    c. 高等学校    d. 大学    e. その他  
回答. (14)    (18)    (23)    (64)    (3)

② それはどの教科においてでしたか。

a. 国語    b. 社会    c. 理科    d. その他  
回答. (22)    (38)    (2)    (52)

12. レポート，論文の書き方について学校で授業を受けたことがありますか。

( )

40

a. はい (66)    b. いいえ (44)    c. 忘れた (24)

回答.

(44)

(24)

① それはいつですか。    a. 小中学校 (12)    b. 高等学校 (34)    c. 大学 (34)    d. その他 (1)

回答.

(12)

(34)

(34)

(1)

② それはどの教科においてですか。 ( )